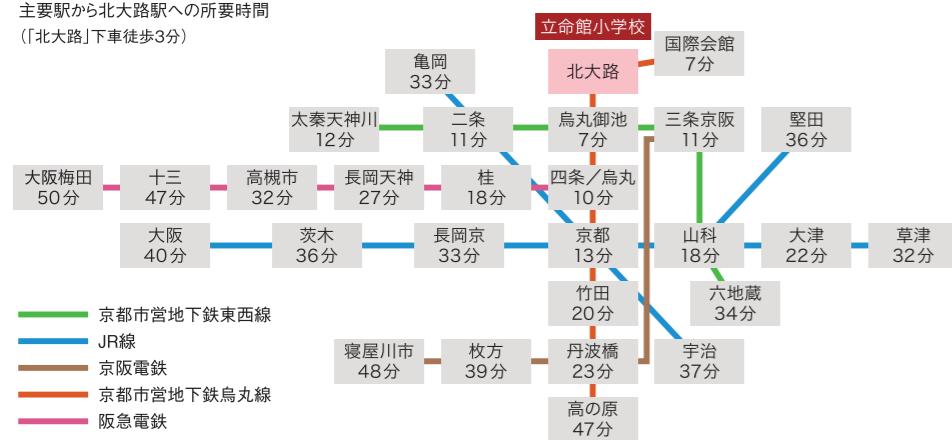




主要駅から北大路駅への所要時間
(「北大」下車徒歩3分)



立命館小学校

〒603-8141 京都府京都市北区小山西上総町22番地
TEL.075-496-7777 FAX.075-496-7770
<http://www.ritsumeic.ac.jp/primary/>

2020年1月版



Ritsumeikan Primary School

学んだ子どもたちが、世界をかえていく。

Raising children to be globally-minded

人生の根っこを しっかり育てる。 豊かな実りをもたらすように。

子どもたちの未来は木々の枝葉のように無数に広がっています。

広がった枝葉の先で豊かな実を宿すには、根っこのが大切です。

人生の根っこにあたる小学校時代に、しっかりとその力を育む。

立命館小学校ではこのような「培根達支」の理念のもと

豊かな人格形成教育をすすめています。

立命館小学校

4つの柱

自分の力で考え、未来を創っていく人を育てるために、立命館小学校では教育の指針となる「4つの柱」を掲げています。



行動力を育む子どもも主体の授業

scene1



問題解決を促すMinecraftの授業

「この前の授業でどこまで進んだ?」「あとは屋根をつくったら完成だよ」

授業の準備をしながら6年生が話すのは「Minecraft(マインクラフト)」というゲームの話。

Minecraftとは、オープンワールドで集めた素材を使って自由にブロックを配置し建築などを楽しめる教材です。

立命館小学校のICT科ではこのMinecraftのエデュケーション(教育)版を活用し、

PBL(Problem-Based Learning)と言われる問題発見・解決型の授業を行っています。

みんなで考える。だから楽しい

子どもたちがコンピュータの中で作っているのは、平等院や二条城など京都の伝統建築物。

グループごとに紙に描いた設計図をもとにブロックを積み上げていきます。

「ここに壇を置きたいんだけど、どのくらいの範囲を囲えばいいかな?」

「この座標に柱を建てるからその外側までにしよう」

「じゃあ僕は先に柱を建てるための石を集めてくるね」

この授業の中で大切にしているのはみんなで考え、協力して行動すること。

それは教員から一方向で伝えても決して生まれない経験の力です。

実際に考え、挑戦し、体験したことから、自然と多くのことを学びとっていく。

子どもたち自身が本来持っている力を最大限引き出しながら授業は進んでいきます。

完成した建築物のデータは、まだ京都に来たことのない海外の人へ渡ります。

「平等院の歴史を伝えたい」「神社でのお参りの作法を表現したい」

「まずは平等院がいつ建てられたのか調べよう」「お参りの意味を考えてみよう」

海外の人に喜んでもらうにはどうしたらいいだろうと真剣に話し合う子どもたち。

自分以外の他者に向けたアウトプットを意識することで、積極的な気持ちが生まれ、

子どもたちは自然と興味や思考を広げていきます。

意見の対立も一つの学び

一生懸命に考えているからこそ、時にはお互いの意見が対立することも。

この時、あえて教員は何も言いません。

子どもたちの力を信じてぐっとこらえます。

すると、自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、どうすればお互いが納得できるか考え始めるのです。

大人になっても意見が合わないことはたくさんあります。

対立を超えていくプロセスを小学生の時から経験することは、これから社会で確かな力として生きていきます。

経験が確かな力を育む

技術が進歩し、めまぐるしく変化していく現代社会。

知識は持っているだけではなく、どう活用するか、他者と一緒に何を表現するかが重要視されています。

自分たちで考え、他者と一緒にチャレンジする。

その経験が行動する力となり、子どもたちの中に学びの土台を築いていくのです。



文化を超えるワールドウイーク

scene2



待ちに待った、ワールドウイークのはじまり

夏休みが終った後にも、立命館小学校の子どもたちには、とびきりの楽しみが待っています。立命館アジア太平洋大学(APU)の国際学生を迎えて、世界について学ぶ「ワールドウイーク」は、立命館小学校の一大イベント。学生たちを「先生」として、各国の文化を学ぶ特別授業が行われます。教室には国際学生の国の旗や絵が飾られ、ちょっとしたお祭りムード。楽しい1週間の始まりです。ワールドウイーク中、国際学生とのコミュニケーションはすべて英語で行われます。たどたどしくても、一生懸命に単語を紡ぎ、英語で質問する子どもたち。培ってきた英語を積極的に話す力を養います。

「普通ってなんだろう?」

しかし、ワールドウイークの最も大切な目的は別にあります。5年生の教室では、海に浮かぶ流氷の絵がスライドに映し出されました。これは「見えない文化」の授業です。「海の中に沈む大きな氷の部分は、目に見えない文化です。たとえば、考え方や価値観の違いのこと。平和や友情の定義も、国や文化によって違ってきますね」子どもたちは学生たちの発表する「日本で驚いたこと」に興味津々で耳を傾けます。「道にゴミが落ちていないって、普通じゃないんだ!」そして、その話題を深く掘り下げるディスカッションを行います。日本の道端にはゴミ箱が多いと思う。なぜゴミ箱がたくさんあるのかな。きれい好きなのはどうして?見た目を気にしそうるのかも?なんで見た目を気にするの?…子どもたちは、自分たちの「常識」とは何なのかを自ずと考えはじめます。行動や言葉、その人自身の姿には、必ず理由がある。それを受け入れる力を、実際に学生たちと共に意見を交わしながら、主体的に養っていくのです。

文化と立場の垣根を超えて

時間はあっという間に過ぎ、最終日のお別れ会の時間。集まった学生たちに、子どもたちは日本の四季の美しさを歌に乗せて伝えます。文化を教えてもらうこと。ルーツを明かしてもらうこと。考えを話してもらうこと。それは本来、とてもありがたいこと。教えてくれてありがとう。そのお返しに、私たちとこの国のこと、そして感謝の気持ちを伝えたい。「うさぎおいしかの山…」。名曲「ふるさと」の美しい歌声が、体育館中に響き渡りました。お別れも大切な経験のひとつ。一人の「人」として向きあい培った絆は、遠く離れてしまっても、簡単に切れるものではありません。ワールドウイークを経て、子どもたちは多様な人々との関わり方をより一層学ぶことができました。

多様性を受け入れる「真の国際人」へ

国、言葉、人種、民族性、宗教。さまざまな違いであふれる世界。その広いフィールドも、突き詰めれば一人の人に他なりません。違いを理解し、その人自身を受け入れ、一步踏み出し、手を取れる。そんな豊かな思いやりにあふれた人こそが、自分を開き、人を開き、「真の国際人」として世界に羽ばたくことができるのです。



Read more

自分を自由に表現する力

ありのままを大事にする表現教育

scene3



自ら考え、感じたままを描く

どこか安心するようなあたたかみが感じられる、立命館小学校の図画工作室。子どもたちは、京都鉄道博物館で本物の蒸気機関車を写生したあと、より強く、より新しいインパクトの表現に挑戦しています。画用紙いっぱいを真っ黒にしている子もいれば、蒸気機関車の車輪だけを大きく描いている子もいます。「上手に描こうと思っちゃいけないよ。上手くなくてもいいから、感じたままに描いてごらん」教員は、どのようなものを描けばいいのかは、あえて教えません。立命館小学校の図工教育では「間違っていい」「失敗してもいい」「人と違う表現ができる」を大切にしています。そして同時に『考える力』・『決める力』・『表現する力』の3つを高めています。自分自身で考えて行動する自発的な思考力を、アートを通して身につけていきます。「何を描けば先生に褒めてもらえるんだろう?」ではなく、「自分は何が描きたいんだろう?」失敗をおそれずに、新しい物事に挑戦する力を養います。

認め合うことが思いやりにつながる

授業の中には、子どもたちが互いの作品を見て、よいところを認め合う『集団学び』の時間が設けられています。互いの自由な表現方法を見て、その絵のどこがよいのか、そして、それはなぜなのか。自分の感じたことや考えたことを具体的に発表し合う時間です。子どもたちは、認められることで喜びと安心を感じると同時に、自分も友達を認めることができると気づきます。子どもたち同士で豊かな発想を認め合うことで芽生える、「自分は自分のままでいい」という安心感と自己肯定感は、自然と他者を思いやる力に変わっていきます。

作品の一つひとつがだれかへの贈り物

3年生がつくるのは、大切な家族のための抹茶茶碗。お父さんやお母さん、家族のだれか一人を思い浮かべて、その人のための茶碗をつくります。「おばあちゃんは熱いお茶が好きだから、冷めにくいお茶碗がいいな」自分ではなく、だれかのためにつくる茶碗…子どもたちは、どうすればその人にぴったりのものがつくれるのかを考えます。「底が厚いお茶碗をつくれば、冷めにくくなるかな。持った時にも、手が熱くないはず」こうして試行錯誤を繰り返していくうちに、子どもたちは、身の回りにあるものの形や色に意味があることにも気づきます。日常の何気ないものごとに興味を持つことは、深い学びへの第一歩です。

豊かな感性は成長の土台に

図工の授業で子どもたちが身につけるのは、技術や絵心だけではなく、ものの見方と学び方、そして他者との関わり方。作品を通して、自分自身の思いを自由に伝え合う環境の中で、ものへの興味と新たな視点が広がります。豊かな感性を磨きながら、これから学びに必要な土台の力と生きる力を、のびのびと、子どもたち自身の手で培っていくのです。



異年齢で学び合うハウス活動

scene4



ドキドキのハウス遠足へ出発

「いってきまーす」

学校中に響き渡る子どもたちの元気な声。今日は待ちに待ったハウス遠足の日です。

6年生のお兄さんお姉さんに手を引かれてゆっくり歩き始める1年生。

その隣で楽しく仲間を盛り上げる3年生と4年生。

しおりをじっと読み込む5年生とそれを真似する2年生。

学年を超えて子どもたちが織り成すこの光景は、立命館小学校の特徴の一つである「ハウス活動」が支えています。

1年生から6年生までが一人ずつ集まって構成される「BS(Brothers&Sisters)」、

5つのBSで構成される「ファミリー」、そしてファミリーが4つ集まった「ハウス」。

ハウスには「桜」「桐」「欅」「楠」「楓」の6つがあり、子どもたちは6年間同じハウスに所属します。

立命館小学校では、清掃など普段の学校生活の一部をこの異学年の集団で取り組んでいます。

ハウス遠足もその取り組みの一つ。6つのハウスがそれぞれ異なる目的地に向かいます。

思いやりと自立心が芽生える

今年の桜ハウスは比叡山でウォークラリー。

色とりどりの花の道を上級生と下級生が手を取り合って進んでいきます。

「あっちはきれいなチョウが飛んでるよ」「植物の種類はどれくらいなんだろう」

感じたことや不思議に思ったことを話しながら進む6年生は、隣を歩く1年生と自然に歩幅を合わせていきます。

そんなお兄さんお姉さんの思いやりを感じて、下級生は心の奥に上級生への憧れを抱きます。

「いつか私が上級生になつたら、同じようにしてあげたい」

ハウス活動を通じて、学年を超えたつながりが生まれる瞬間です。

目的地に着くとハウス代表の6年生がみんなの前で注意事項を説明します。

緊張しつつも、練習してきた内容を下級生の前で一生懸命に伝えます。

「みんなに聞こえるように大きな声で話そう」「1年生でもわかるように簡単な言葉で伝えよう」

自分の姿をハウスの下級生が見ている。だからこそお手本にしてもらえるような先輩になりたい。

上級生として前に立つ責任は重大です。

けれどもその责任感が、子どもたちの中に確かな自立心を育んでいきます。

学びの根っこを育む

遠足からの帰り道。子どもたちは出発の時よりも互いの距離を縮め、本当の兄弟、姉妹のように笑顔で帰ってきます。

「お兄さんに手をつないでもらえたよ」「一緒に食べたお弁当がおいしかった」

下級生たちが遠足の感想を楽しそうに話します。

「時間通りにまわってよかった」「3年生に盛り上げてもらえて助かった」

上級生もそれぞれ今日の出来事を振り返ります。

同じ学年同士だけでは決して生まれない気づきや経験が、子どもたちの中に学びの根っことして培われていきます。

ハウス活動は立命館小学校が開校当時から大切にしている特徴的な取り組みです。

どこまで子どもたちの自主性に任せるか、教員はどうかかわるべきか、

何もかもが手探りだった当初から10年以上が経ち、今では立命館小学校の根底に流れる文化になりました。

その文化をつくってきたのは、立命館小学校で学び巣立っていった卒業生と、いまここで学んでいる子どもたち自身です。

この学年を超えて共生する力が子どもたちの成長と可能性をしっかりと支えていくのです。

Read more



Graduate Cross Talk

卒業生座談会



※2019年11月時点の情報です。

立命館小学校が開校した2006年。当時3年生として入学した1期生の子どもたちが、それぞれに成長を遂げ、社会に飛び立とうとしています。どのような小学校時代を過ごし、これから何を目指して人生を歩もうとしているのか。卒業生3名に話を聞きました。

大山:僕は立命館小学校に入学する前、よく喋るし、うるさくて、先生からも注意を受けることも多かった。だから、よく喋ることはダメなことで、直さないといけないと思っていた。だけどある時、先生から、「目立つことは悪いことではない。君は自分から発信することができるのだから、そこを伸ばしていこう」と言ってもらえて、自分から発言することに自信を持てた。

三浦:子どもたちの個性や考えを尊重してくれる文化はあったね。入学した初日、クラスでどんな係が必要か議論したこと覚えてる?すでに決められた係があるのではなく、子どもたちの目線からどんな係があつたらいいかを議論するということに驚いた。

大山:生き物係のようなよくある係もあったけど、遊び係のような子どもならではのちょっと変わった係もあったよね。

三浦:遊び係、あつたあつた。遊び係がいるか、いらないか真剣に議論していた。僕自身は自分から発表するようなタイプではなかったけれど、後ろの席の子が誰かの発言に対して「異議あり!」と意見を述べていたことはとても印象的。立命館小学校のレベルの高さを感じた。

鶴田:私は、立命館小学校で思い出深いのはやっぱり、5年生の時に立命館アジア太平洋大学(APU)に行ったことや、ワールドウィークでの体験など、国際的な場面かな。立命館小学校に入学するまで、海外の人に触れ合うということは



なかったし、ましてや英語を使うこともなかった。だけど立命館小学校で他の国の人と話す機会が自然と増え、視野が広がり、楽しかった。

三浦:APUでは外国の歌と一緒に歌ったり、踊ったり、飯盒^{はんごう}炊爨^{すいさん}をしたり、楽しかった。

鶴田:本当にいろいろなことを体験できたと思う。中学、高校、大学と国際系の道に進んだのも、小学校時代に英語を学んで他の国の方々ともっと話したいと思うようになったことがきっかけ。

◆ ◆ ◆

日常に溶け込んだ「国際」

大山:立命館小学校は国際的な体験がすごく身近にあったと思う。毎朝のモジュールタイムでも英語の時間があるし、ネイティブの先生も多く、知らないうちに国際交流をしていた。公立の学校に通っていた友達からネイティブの先生が多いことを羨ましがられて、立命館小学校の環境が特別であることを実感した。

三浦:「英語」や「海外」というものに対してハードルが低いよね。僕も中高に進むにつれて、語学力や海外の人とのコミュニケーション力の基礎が培われていることを感じた。

鶴田:小学校から英語教育をしっかりと受けてきたことで、逆に壁にぶつかった経験はなかった?

三浦:昔から英語の勉強をしてきたということで、自分はできると思い込んでいた部分はあったかも。高校の時には英語の成績が伸び悩んで、英語への熱量がなくなった時期もあった。けれども、高校の最後に領土問題について英語で論文を書く機会があった。世界で起きていることをたくさん調べて考える中で、やっぱり国際の目を持つことは大事だと改めて感じた。

鶴田:私も高校の最後に多文化主義についての論文を書いた。当時フランスでテロが起きて、その背景を知るうちに文化に対する価値観の問題が大きいことが分かった。そういう問題に関心が持てるのも小学校から海外と触れ合えていたからだと思う。

大山:日常的に海外の人と接することで、異文化に対する壁がなくなっていると思う。海外に行っても普通にコミュニケーションが取れるのは、小学校から語学力だけでなく、異なる背景を持った人と向き合う力を知らないうちに養っていたから。



鶴田:あと、私が印象的だったのはハウス遠足。入学当時は1年生から3年生までしかいなかったから、3年生だった私たちが1年生や2年生を引っ張っていく存在だった。しかも1年生、2年生の子たちがやんちゃで最初はすごく大変だった。

三浦:確かに大変だった。ハウス清掃の時間も下級生をまとめようと頑張った。そのおかげで後輩との関わり方を学べたと思う。

大山:リーダーだから周りの人のお手本になる行動を意識した。中高に上がると特にその意味を実感したかも。

鶴田:自然と責任感が芽生えたよね。最初はやんちゃだった1、2年生も学年が上がるにつれて、だんだんと私を支えてくれる存在になって嬉しかった。

大山:大学になって久しぶりに当時の下級生に会うこともある。そしたら敬語で話されてびっくりした。いつの間にかお互い大人になつたなと感じたよ。

三浦:卒業してから会っても、ファミリーと

いう感覚はあるよね。それだけ自分たちの中で大きな存在だったのかも。

◆ ◆ ◆

三浦:他に授業のことで思い出すことってある?

大山:図工の時間も印象的。先生が「失敗は1000回しなさい。失敗してもいいから何回も挑戦しなさい」という方針だった。そのおかげで、のびのびと自分の感じたことを表現できたと思う。

鶴田:実際何度も書き直させてもらったよね。

大山:お茶碗をつくる授業の時に、あまり考えもせずに普通に作って先生に見せたことがあった。すると、「これで納得しているのか?」と言われ、自分が100%やり切っていないことに気づいた。そこから細かいところまでこだわって満足いくまで作り込んだ。

三浦:今でもそのお茶碗持ってる?

大山:持ってるよ。今になって改めて見返すと、小学校の時によくこんなにも手のこんだものを作ったな、と自分で自分

友達から学んで、刺激を受けて

に驚いた。

鶴田:毎朝のモジュールタイム^{*1}も、立命館小学校ならではのもので印象深いよね。

大山:確かに。毎朝大変だったけど、楽しかったかも。

鶴田:毎朝同じことを繰り返すうちに、だんだんと計算が速くなったり、英語がスムーズに読めるようになったり。友達と計算のタイムを競い合ったりもして、自然と楽しみながら勉強していたな。

三浦:周りの友達と力を高め合えたことは今でもよかったと思ってる。僕の場合は、友達のノートの書き方からも刺激を受けていた。算数の授業だったと思うんだけど、先生がいろいろな子たちのノートを見せて、「人によってノートの書き方が違うよね。どの子も考えて書いていて、良いよね」と。友達のノートを見て、こんな書き方もあるのかと刺激を受けた。たしか大山くんのノートだった気がする。

大山:そうだったっけ。僕は先生がした質問も、全部ノートに書き留めていた気がする。

鶴田:思い出した。すごく細かいことまで書かれたノートだった。

大山:あの時、他の子よりも字が汚くて。だからせめてノートだけは他の子よりも良いものにしようと、自分なりにできることを頑張っていた。

三浦:一人ひとり感じ方や表現の仕方が違って、だからこそ自分の個性が大事だと子どもながらに感じた瞬間だった。

◆ ◆ ◆

大山:立命館小学校は一人ひとりの個性を伸ばしてくれる学校だったと、改めて実感するね。「あなたの良いところを伸ばしなさい」と言われたおかげで、大学でも自分から積極的に行動しようと考えるようになった。アメリカをまわって学生を集め、日本とアメリカを繋ぐ国際交流サークルを作った。

鶴田:自分で作り出したのはすごいね。

大山:僕は国際交流に対してハードルは低いけれど、実際そうではない人も多い。自分にとって当たり前でも他の人にとっては当たり前ではないこともある。そういうことを提供できたら世界を変えられると思っている。

三浦:僕も、自分のありのままを受け入れてもらえたおかげで、今いろいろなことに挑戦できていると思う。一步引いてみて、ちょっと他の人と違うことをしたい。それが僕の個性。

立命館小学校ではそういう個性を認めてもらえていた。

大山:一步引いてみられるのは、大事な才能だよね。

三浦:ありがとう。だけど就職活動の時には正直自分の個性を見失っていた。なんとなくきれいな回答ばかりを探したりして。自分の個性を大事にした方がよいと思うようになってからは面接にも通るようになった。自分の個性を認めてくれた会社で、一步引いた視点も活かしながら社会の根底を支えられる仕事をしたい。

鶴田:立命館小学校では新しいことに挑戦する機会が本当に多かったと思う。アフタースクール^{*2}にも参加することで、それまで経験したことのないような活動ができた。

大山:茶道とか、バイオリンとか、いろいろあるよね。

鶴田:そういったいろいろな経験と、あとやっぱり国際交流の経験が今に活きている。小学校で海外の人と触れ合う楽しさを味わえたからこそ、卒業してからも国際交流をしたいと思い、高校では1年間留学した。大学でも国際関係学を学んだり、ESSに所属して英語でスピーチをしたりしていた。

三浦:小学校でも英語でスピーチしたよね。

鶴田:したね。自分で選んだ英語の本を紹介したり、文化フェスティバルで発表したり、表現する機会も多かった。そ

ういった経験が蓄積されて、堂々と人前で意見を述べられるようになったと思う。

◆ ◆ ◆

大山:卒業して時間が経つけれど、小学校時代のことって今でもたくさん思い出せるね。

三浦:そうだね。今でも同級生やハウスの友達とも交流があるし、刺激も与えてくれる。立命館小学校でのつながりは良い影響を一生与え合えるものだと思う。

大山:卒業生がフィギュアスケートや、ロボット製作、他にもさまざまなフィールドで活躍している。個性を伸ばしてくれる環境だからこそ、多種多様な環境で活躍できる人が成長するのかもしれない。

鶴田:自分の個性を引き出してくれる学校だよね。自分のありのままを認めてくれる。そういう環境で成長できたからこそ、社会に出て自分なりの方法で挑戦を続けていきたいね。

*1 モジュールタイム…P18へ *2 アフタースクール…P20へ





[シンガポール] 交流型/5年生
ルーラン小学校

Rulang Primary School

児童は授業に参加し、ホームステイも経験します。英語学習に加え、シンガポールの多国籍文化に触れることで異文化理解への素地を育みます。



[タイ] 交流型/5年生
王立チラダスクール

Chitralada School

タイ・バンコクの王宮の中にある由緒ある学校です。児童は授業に参加し、アートや音楽等を通して相互の文化交流を深めます。ホームステイも経験します。



[カナダ] 体験型/6年生
バンクーバー研修

資格者による英語研修や約1週間のホームステイを通して、英語コミュニケーション能力を磨き、個々の自立心を養います。



[中国] 交流型/5年生
北京大学附属小学校

Peking University Elementary School
開校以来、学校間交流を実施してきました。隔年毎に両校がお互いの学校を訪問し、児童は授業に参加しながら文化交流を行います。パディ児童家庭でのホームステイ後も、交流が長く続いています。



[ハワイ] 体験型/4年生
YMCA Camp Erdman

英語学習に加え、自然が豊かな環境でのキャンプ生活を通して多彩なアクティビティに参加します。日常の生活では経験できないことを体験し世界観を広げ、より豊かな感受性を育んでいきます。



[アメリカ合衆国] 交流型/5年生
ポリテクニック スクール

Polytechnic School

出発前からSkypeによる事前交流を実施。現地校のパディ児童の家庭にホームステイし、授業にも参加します。「自立」と「個性」を育むことを目的としています。



Challenges Abroad

子どもたちよ、海を渡れ！

～世界とつながる立命館小学校～

海外研修プログラムは、異なる言語文化環境の中で、

日々の生活を切り拓く体験を通して、

異文化対応力、自己成長力を高める挑戦の機会となります。

プログラム参加児童の声



難しくても、わからなくても全力でチャレンジ
国を超えた友情が生まれた

5年生時 TAS留学プログラムに参加

に来てね」と毎回書いてくれます。私が話した日本語を忘れないでいてくれて、「ここにちは」とか私の名前を漢字で書いてくれるのもとても嬉しいです。私も「会いたいよ!」と返事を書いています。



自分の成長について

家族と2ヶ月ちょっと離れて生活をしてみて、前よりも自立して、家族の大事がわかったと思います。そして、勉強は全て英語だったので難しかったけど、授業やテストを必死に頑張った結果、TASの全校集会で、成績で表彰されたときはとても嬉しかったです。決してあきらめずに努力することが大事だと思いました。

ターム留学で心に残る行事は？

最終日のミュージカルは特に印象に残りました。生演奏でダンスを踊り、みんなで練習を何回もしたこともいい思い出です。ちなみに私は“くらげ”的役でした！

TASはどんな学校ですか？

とても明るい雰囲気の学校です。元気100%。先生が親切で、友だちは優しく接してくれます。たくさんのことを学んだオーストラリアTAS留学は最高です。すばらしい経験でした。



[オーストラリア] アドバンス型/5・6年生
トゥーンバ アングリカン スクール(TAS)

Toowoomba Anglican School

2ヶ月のターム留学プログラムです。「海外寄宿生活(ボーディングシステム)による実践的語学力向上」と「現地の子どもたちから学ぶ自主自立の力」を身につけることをねらいとしています。



立命館小学校 海外研修プログラム

海外研修には「体験型」「交流型」「アドバンス型」の3つがあります。「体験型」は英語力よりもチャレンジ精神が重視されます。「交流型」は学校の代表として現地児童とコミュニケーションをとる積極性や主体性、協調性が育れます。「アドバンス型」では英語力だけではなく長期の寮生活によって自立心や生活力が磨かれていきます。幅広いプログラムの中から目的に合った研修を選ぶことができるのも大きな魅力です。

堀江未来代表校長からのメッセージ

楽しかった…にとどまらない
異文化体験を！

本校の国際教育は、事前・事後学習も含めて異文化体験での刺激や学びを全人教育につなげることを追求します。多様性に開かれた人権感覚と感性をもち、グローバル社会で自立した個人として幸福感をもって歩んでいくこと。そういった素養を身につけるため、子どもたちには心が柔軟なうちに多様な文化・社会に触れ、自分らしさを輝かせてほしいと考えています。

語学研修引率教員の声

研修の前半で「先生、英語でどう言えばいいですか」と子どもたちは何度も質問してきました。その都度「うまく話せなくても、とにかく伝えてごらん」と答えました。ちょっと大変な経験こそ成長のチャンスと考えたからです。すると、子どもたちは知っている言葉をつなぎ合わせて積極的に会話をするようになりました。「伝えたい」という気持ちが相手に伝わることで、相手も理解しようしてくれることに気づいたのだと思います。異文化に身を置き、英語を使うことで、成長につながるのだと実感したプログラムでした。

3月 March	4月 April	5月 May	6月 June	7月 July	8月 August	9月 September	10月 October	11月 November	12月 December	1月 January	2月 February	3月 March	4月 April
● 入学式 ● ハウス歓迎会	● 今年度の漢字 ● ハウス遠足	● 宿泊体験学習(3・5・6年生) ● 文化フェスティバル ● ハウスものづくり(1～4年生)	● 水泳	● ワールドワイーク	● リッツスポーツフェスティバル	● プライマリーデー(保護者会行事) ● ひみつ色の教室(草木染体験)	● 宿泊体験学習(4年生) ● 文化フェスティバル	● 合唱コンクール(5・6年生)	● 百人一首大会	● 公開授業研究会	● 立志式(4年生)	● 卒業式	● 卒業式



School Life

1年の学校生活

楽しいこと、ワクワクすること、夢中になれるうこと。
1年間のさまざまな行事を経験しながら大きく成長していく
子どもたちの姿がここにはあります。

■ 芸術鑑賞

保護者会のご協力を得て、演劇や影絵・伝統芸能・音楽などの鑑賞会を学年ごとに行っています。本物に触れるこことによって、豊かな感性を育みます。



■ 課外クラブ

合唱・ロボット・駅伝の3つの課外クラブがあり、主に4年生以上の子どもたちが参加しています。大会やコンクール、コンサートでの活躍を目標に、主体的に練習をしています。



7:40~8:10

8:25~8:35

8:40~10:20

10:20~10:40

10:40~ 12:20

12:20~13:05

13:05~13:25

13:45~15:25

16:10~17:00

登校

モジュール
タイム

1・2時間目

中休み

3・4時間目

給食

昼休み

5・6時間目

アフター
スクール

「おはようございます!」
立命館小学校での学びは
元気なあいさつから始まりま
す。カバンに入っているICタグにより、登下校時には
保護者にメールが配信されます。



一人で集中して学んだり、友達と遊び合ったり…教科や学習
内容によって多様な学びの姿があります。



本校の授業は教員が一方向から進
めるのではなく、子ども
たちからの発信を大切にし、主体的
に学ぶ環境をつくりま
す。



音読、英語、計算などに取り組みます。集中力を高めると共に、人間力の
育成および基礎事項の徹底反復を行います。



低学年には総合遊具(ジャングラミング)が大人気です。花の
水やりやおにごっこなど、思い思いに過ごします。



人工芝のグラウンドで人気の遊びは、ドッジボールです。クラス
を越えて一つのボールを追いかけています。



成長期の子どもたちにとって、毎日の食事はとて
も大切です。給食は、びわ湖大津プリンスホテル
に委託し、栄養のバランスを考え、さまざまな食材
を使った献立を提供しています。

人気の給食
カレーライスなど給食定番
メニューのほかに、ビーフシチュー
やチキンのオーブン焼き、コーン
スープ、和食では豆腐となめこ
の味噌汁などが人気です。



音楽は子どもたちに大人気の教科。“おもいを音で表現することを楽しむ”
をモットーに、歌や楽器の演奏を楽しみ、お箏や日本舞踊、篠笛にも挑戦
しています。

■ メディアセンター



休み時間に
人気の施設



メディアセンターには、古典的な名作から最新の話題作まで4万冊以上
の本(うち、英語が5千冊以上)を所蔵しています。年間10万冊の
貸し出しがあります。うち、1万冊は英語の本です。

A Day at School

1日の学校生活

友だちや先生と過ごすかけがえのない
一瞬一瞬が子どもたちにとっての学びとなります。

アフタースクール



授業とは違う学びで 好きなことに夢中になれる時間

放課後には、スポーツ・芸術・外国語など各分野の外部講師を迎えた講座を開講しています。専門家の本格的な指導の下で、日本の伝統文化に触れたり、芸術への造詣を深めたり、スポーツを楽しんだりと、好きなことに夢中になることができます。講座終了後に開催されている「お預かり」の時間は、自学自習で保護者の迎えを待ちます。



■ 2019年度の開講例

- | | |
|-----------|------------|
| ●サッカー | ●囲碁 |
| ●チアリーディング | ●英語 |
| ●絵画造形 | ●中国語 |
| ●そろばん | ●琴 |
| ●ヴァイオリン | ●日本舞踊 |
| ●能楽 | ●合気イングリッシュ |
| ●茶道 | ●学びの時間 |
| ●華道 | |
| ●書道 | など |



■ お預かりの詳細

アフタースクール終了後、17:10～18:30までお預かりを実施しています。子どもたちは、おやつを食べた後、自分の課題に取り組んだり、友だちと楽しく過ごしたりしています。

	時 間	下 校
アフタースクール	16:10～17:00	子どもたちだけで下校可能
お預かり	17:10～18:30	保護者と一緒に下校



立命館小学校に関するQ&A

[立命館小学校の概要について]

Q.入学定員は何名ですか？

1学年120名です。1学年4クラス、30名学級です。

Q.年間の学費等はどれくらいかかりますか？

ご参考として、2019年度の1年生の年間での費用をお示しします。授業料80万円、教育充実費20万円、入学金30万円となっています。これら以外に、積立金(宿泊体験学習等)、給食費、教材費等の学納金が年間約24万円となります。

[安心安全、登下校について]

Q.通学バスや自家用車での送迎はできますか？

通学バスはありません。また、自家用車での送迎は、近隣の方のご迷惑となりますので禁止しています。
通学方法は、原則として徒歩か公共交通機関を利用することとなります。

Q.登校時刻、下校時刻を教えてください。

本校の登校時間は7時40分から8時10分となっています。8時10分から学年集会や朝の会などの活動がスタートします。また終わりの会が終了するのは15時40分で、最終下校時刻は16時です。その時間までは、グラウンドで遊んだり、メディアセンターで本を読んだりすることができます。任意でアフタースクールも開講しており、16時10分から17時まで15講座ほどの中からお選びいただいた講座を有償で受けることができます。またアフタースクール終了後、18時30分まではお預かりも実施しています。

[入試について]

Q.入試の際に月齢による発達の差異は考慮されますか？

考慮をした上で、総合的に合否の判断をしています。

Q.居住している地域や通学時間での受験の制限はありますか？

居住されている地域によって不利になることはありません。国内外のどこに住んでいても受験は可能です。
また、通学時間によって受験を制限することも行っています。「早寝、早起き、朝ごはん」を無理なく実践できるかどうかを、それぞれのご家庭で判断していただきたいと思います。